

学びの風便り

リーディングスクール通信 54 R7.11.15

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 開成中学校・リーディングスクールラボ2

開成中学校 学校目標「自律・尊重・貢献」の実現に向けて！

リーディングスクールとして2年間の取組を経て、今年度から新たに掲げた学校目標「自律・尊重・貢献」。開成中学校ではこの実現を目指し、授業や生徒会活動など、さまざまな場面で、生徒も教職員も意識を高めながら歩みを進めています。今回は、その取組の一端を紹介します。

【学校目標】：

「自律：自ら考え、行動する」

「尊重：自分も人も大切にすること」

「貢献：人の役に立つ行動をする」

自律・尊重・貢献を体現する探究的な学び ～ 開成タイム発表会 ～

10月31日、3年生による「開成タイム(総合的な学習の時間)」の発表会が行われました。1・2年生全員と地域、保護者の方々が8つの会場に分かれ、興味のあるテーマを選んで参加しました。そして、3年生の発表を聴き、質問や感想のフィードバックを通して交流を深めました。

「松本の福祉」をテーマにした会場では、高齢者施設でのふれあいを通して、福祉や高齢者を思いやる気持ちの大切さに気づき、体験から学んだことを伝えようと発表に臨みました。冒頭で、「福祉とは、だれもが幸せで自分らしく文化的な生活を送れるように、みんなで支えあうこと。私たちは地域に少しでも貢献したいという思いで、高齢者施設を訪問しました」と活動の目的を伝えました。発表を聴きにきた1・2年生は、高齢者施設で行われた「風船バレー」を実際に体験し、会場は笑顔に包まれました。続いて、施設で働く方々のやりがいや苦勞、体験を通して感じた課題、そして自分たちにできる貢献について発表しました。

「松本のPR」をテーマにした会場では、松本のおいしいグルメを紹介することを通して、松本のよさを再発見してもらいたいと願い、有名店や有名な食べ物についてお店の方に取材をし、工夫されている点や仕事のやりがいなどをプレゼンにまとめ発表しました。このようにどの会場でも学校目標を意識した発表が行われていました。

自分で考え、訪問や取材などを通して関わった方を尊重し、行動に移して地域に貢献しようとする3年生の姿は、まさに学校目標を体現している姿といえるのではないのでしょうか。3年生の姿を見た後輩たちが、来年度、どのような探究的な学びを生み出していくのか、今から楽しみです。

「自律・尊重・貢献」を意識したさまざまな取組みに感謝！

今年度赴任した近藤校長先生と、開成中の2年間の取組を見守ってきた小泉教頭先生からお話を聴きました。



- *今年度校長として赴任し、先生方がさまざまな場面で、「自律・尊重・貢献」とつなげながら支援しようとしている姿に感謝しています。月ごとの生徒会目標も生徒会のメンバーと担当の先生が、常にこの学校目標と関連付けて提案してくれるので、生徒も先生も自然と意識するようになっていきます。3年生による開成タイムの発表も、「地域に貢献」をテーマに「自分で考え、関わる人を尊重する」という、まさに学校目標が具現化された姿になったと思います。
- *3年生は、昨年の開成タイムの発表を見て学びを“シンカ”させていると感じました。昨年は初めての挑戦で、緊張感のある発表でしたが、今年は発表する3年生も、聴く1・2年生も「一緒に楽しんでいる」と感じました。この“探究の学びを楽しむ”空気感が、開成中にとって大切な宝物になっていくと思います。

「自律・尊重・貢献」の実現に向けて、開成中では、これからも生徒と先生が共にチャレンジを続けていきます。

＊リーディングスクール・ラボ2

熱量の高い「対話」で学びを深める



リーディングスクール等、松本市で学びの改革に取り組んでいる学校 22 校が、ここまでの各校の歩みをアウトプット（スライド、ポスターセッションなど）する、中間アウトプット会を行いました。「アウトプット 5 分、フィードバック 10 分」のやりとりを 2 回行い、各校の取り組みを共有しました。

リーディングスクール事業がスタートして 3 年目を迎え、昨年度の経験を踏まえた実践の工夫が語られたり、フィードバックでは、参加者がオープンクエスチョンで発表者の課題を深掘りしたり、具体的なアドバイスを行ったりする、熱量の高い対話の場となりました。



参加者のふりかえりから、具体的な実践のヒントや気づきを以下に紹介します。

子どもの「主体的な学び」をどう引き出すか

- 多くの学校が、学習や活動を子どもたちに委ねているという共通点を確認しました。
- 探究活動のスタートとして、子どもが問いをもてるためのアンカーイベント（体験活動）の重要性を学びました。
- 自由進度学習では、単なるプリント学習にせず、単元選びやまとめの設定を吟味し、学校全体で取り組む必要性を再確認しました。
- 子どもに任せる部分と、教師が準備する部分の「見極め」の大切さに気づきました。

「教職員の協働」による学校づくり

- 職員集団の仲を深めることが、職員の負担軽減と質の高い実践につながるのの気づきがありました。
- 学年や複数の職員で授業づくりをしたり、チームを組んだりすることが、職員のチャレンジ精神を後押しすると学びました。
- 研修や研究のスタイルを、先生方の「やりたい」というニーズからスタートさせる工夫が参考になりました。

今回得られた気づきやアドバイスは、皆さんの研究を次のステップへ導く宝物です。ここまでの取り組みを改めて確認し、仲間からのフィードバックを大切にしながら、各校の研究がさらに深まっていくことでしょう。

1 月 30 日のリーディングスクールフェスは、皆さんの研究の成果を祝い、一緒に喜び合う場です。それぞれの学校で培った実践アウトプット、松本市内の仲間のフィードバックが楽しみです。